

2 主題研究推進計画

1. 研究主題

確かに読み取る力を育てる指導の在り方

～説明的文章の学習における書く活動を通して～

2. 主題設定の理由

(1) 本校の教育目標から

本校では、「豊かな心をもち、学習や生活を積み上げ、創り出す児童を育成する。」を基本目標とし、「確かな学力を身に付けた子ども」「健康の保持増進と体力向上に努める子ども」「豊かな人間性を持った子ども」をめざしている。この目標は、心身ともに健全でたくましく、文化の創造に貢献する知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童を育成することをめざすものであり、知育の面における国語科の果たす役割は大きいと考える。また、この目標の具現化に向けて、全ての教科の基礎と考えられる国語科を取り上げ、その指導の中で基礎・基本の定着を図ること、特に文章を確かに読み取る力を育てることは、学校教育目標の達成のために欠かすことのできない課題であると考える。

(2) 研究経過から

本校では、平成19年度から重点研究として国語科の「読むこと」の領域の研究に取り組んできた。今年度は本研究主題で取り組む3年次に当たる。

平成19年度は、研究仮説に「内容を読み取るための書く活動」「思考を深めるための書く活動」「交流・発信のための書く活動」の3つの書く活動を設定し研究を行ってきた。一単位時間の中に書く活動を位置づけた授業を行うことによって、児童が自分の考えを持ち、主体的に学習に参加するようになってきた。また、学び合いを通して生まれた新たな考えを生かしながらまとめの書く活動を行うことによって、自己の学びの深化を自覚することができるようになってきたという成果が明らかになった。しかし、書く活動を位置づけ、効果的に文章を読み取る基本的な授業の流れがあいまいだったこと、書いたものの評価の仕方が不確かだったこと、学年ごと、教材ごとに児童に身につけさせたい力が明確でないまま授業が行われていたことなどの課題も残った。

それらを受けて平成20年度は、児童がより正確に文章を読み取ることができるよう、書く活動を位置づけた単位時間の指導過程の工夫と指導内容の精選、児童の確かな読みの力を支える学習活動の在り方を中心に研究してきた。その結果、読み書き関連学習の効果が確かめられ、児童が書いたものをもとにしながら自らの読み取りの確かさを自覚することができるような授業を展開することができた。また、説明文の学習において児童に身につけさせるべき学習内容を精選することによって、単元レベル・単位時間レベルの到達目標と学年を通しての系統性が明らかになってきた。

今年度の研究では、昨年度まで積み重ねてきた説明文読解の指導過程のさらなる工夫を図るとともに、指導内容を見直し、学年ごとに指導すべき事柄を明らかにすることによって、児童がより確かに説明文を読み取ることができるようにする。また、説明文学習の授業以外で効果的に確かな読みの力をつける方策をさらに探っていく。

(3) 児童の実態から

本校の児童は、教師の指示に素直に従い、学習態度も良好といえる。漢字練習や音読など国語の学習活動にも進んで取り組み、月1回全校で取り組んでいる漢字チェックテストに向けて真剣に学習を積み重ねたり、教材文をすらすら読めるようになるまで何度も音読練習したりしている。

しかし、学習態度においては、依然として受身的な態度が見られ、一部の児童の発言によって授業を進められることも少なくない。また、読み取ったことや自分の考えを整理して話すことを苦手としている児童が多い。CRT検査からは、国語全体の正答率に比べて説明文についての問題の正答率が下回っているという結果が出ている。正答率が60%を下回った設問を見ても、「内容の読み取り」「接続詞の適語補充」「要約」「段落構成」というように、説明文読解の両輪ともいえる内容面、形式面の両面において力が不足していることが分かった。その要因として、説明文読解の方法が身につけていないこと、文章の中から必要な情報を取り出し、自分なりに解釈して表現す

る力が不十分であったこと等が考えられる。

そこで、児童が説明文の読解技能を身につけられるような指導を行い、また、授業の中を書く活動を位置づけ、読み取ったことを表現させることによって、確かに読み取る力を育てていく。

(4) 今日の課題から

「生きる力」の育成を基本としている学習指導要領では、国語科の目標を「国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力、及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め、国語を尊重する態度を育てる。」としている。このことは、言語で意志や情報を伝達し、表現するという社会生活の基盤となる能力の育成を国語教育が担っていることを表している。

平成23年度の新学習指導要領本格実施に向けて、平成20年3月28日に文部科学省から新学習指導要領が告示された。そこに記されている国語科の目標は現行の学習指導要領のものと全く同じものになっている。これは学習指導要領が変わっても、国語科における根本的な学力観には変化がなく、従来の考え方が継承されることを意味している。

平成20年1月17日には学習指導要領の母体ともなる中央教育審議会答申が公表された。その中の第8章「各教科・科目等の内容」の「(ii)改善の具体的事項」(小学校)に次のような記述がある。「(中略)中学年では、調べたことや観察・実験したことを記録・整理し、説明や報告にまとめて書き、(中略)高学年では、目的に応じて自分の立場から解説や意見、報告を書き、理由や根拠を示しながら説明することができるとともに、自らの言語活動を振り返ることができる能力などの育成を図る。」

また、平成20年8月には、「小学校学習指導要領解説国語編」が公開された。その中の「読むこと」の指導事項の中に、低学年では「大事な言葉や文を書き抜くこと」、中学年では「引用や要約をすること」、高学年では「『事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりする』ことと『書くこと』(1)のウと関連付けて指導すると効果的である。」と書かれてある。

以上の2つのことは、国語科における具体的な指導の改善策として、書く活動が重視されていることを表しており、読み書き関連学習の重要性を表していることが分かる。

以上、(1)から(4)に示したことから本校の研究は、国語科「読むこと」の領域の説明文の学習において、書く活動を単位時間の中に位置づけ、読解の技能を身につける指導を行うことによって、文章を確かに読み取る力を持った児童を育成しようとするものである。書く活動は、児童の思考力を育て、自己の学びを確かめられるものであると考える。そこでつけた力を他教科へも波及させていくことによって学習指導要領がめざす「生きる力」が具現化されていくものと考え、本主題を設定した。

3. 研究の基本的な考え

(1) 研修主題について

「確かに読み取る力」について

「確かに読み取る力」とは、「叙述に即して文章内容、文章形式を正確に理解し、表現する力」にとらえる。

「文章内容」とは、文脈における言葉・文・段落・文章全体が表している意味内容や事柄ということである。

「文章形式」とは、筆者が自分の論を効果的に展開するために工夫している書き方ということである。

説明文を「確かに読み取る」ということは、文章の内容理解だけを意味するものではない。もちろん、文章に書いてある内容を理解し、新たな発見や感動を得ることは説明文学習の大きな目的のひとつである。しかし、それらのことを理解しやすくするために筆者がとっている書き方の工夫を受け取ることで初めて説明文を「確かに読み取った」といえると考えられる。よって、説明文における「確かに読み取る力」を内容面と形式面に分類して定義付け、文章のより深い理解をめざすこととした。

また、「確かに読み取る」こととは、文章の内容や形式を理解するだけでは不十分であると考えられる。本当の意味で「読み取った」といえる姿は、児童が読み取った事柄を内にとどめておくことなく、外に向かって表現した姿である。表現方法は様々あるが、本校ではその中でも重要な方法の1つであり、今後の国語科学習

指導の中核をなすであろう書く活動を選択し、研究を進めてきた。

(2) 研究副主題について 「書く活動」について

本校における「書く活動」とは、『読むこと』の読解学習において、児童が文章から読み取ったことや文・言葉をもとにしながら考えたことをノートやワークシート、教科書等を書くこと。」を意味する。

これは、国語科の三領域の中の一つの「書くこと」とは別のものを意味する。「読むこと」の学習の後に発展学習として位置づけられている意見文等を書く活動を含むものではない。

(3) めざす子ども像

以上のことから、本校の研究でめざす子ども像を以下のようにとらえた。

言葉や文に着目し、文章を正確に読み取ることができる子ども

さらに、児童の発達段階と学習指導要領の「読むこと」の目標から学年ごとの「めざす子ども像」を次のように設定した。これは、その学年に記載されている能力だけを身につけられればよいのではなく、下の学年の能力を身につけた上で、現在の学年に示されている力をつけた姿が本校における「めざす子ども像」である。

高学年	文章構成をとらえ、内容や要旨を的確におさえながら、文章を正しく読み取ることができる子ども。
中学年	中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係や段落の役割を考えながら、文章を正しく読み取ることができる子ども。
低学年	事柄や時間、叙述の順序を考えながら、文章を正しく読み取ることができる子ども。

4. 研究目標

確かに読み取る力を育てるために、説明的文章における、意図的な書く活動を位置づけた指導の在り方を実践的に明らかにする。

5. 研究仮説

説明的文章の学習において、指導過程を工夫し、意図的な「書く活動」を位置づけた学習を行えば、確かに読み取る力が育つであろう。

6. 研究内容と方法

(1) 内容

- ① 平成19年度
 - ・ 確かに読み取るための「書く活動」の在り方
(目的意識「何のために」、方法意識「どのように」)
 - ・ 「書く活動」の場面と支援の在り方(場面意識「いつ」)
- ② 平成20年度
 - ア 「書く活動」を位置づけた授業の在り方の検討
 - ・ 指導過程や書く活動の位置づけ、種類等の検討
 - イ 説明文学習における指導内容の精選
 - ・ 説明文における学習用語の明確化とその定着
 - ・ 説明文の学習において身につけさせたい力の系統表の作成
 - ウ 「確かな読みの力」を支えるための学習活動の工夫

③ 平成21年度

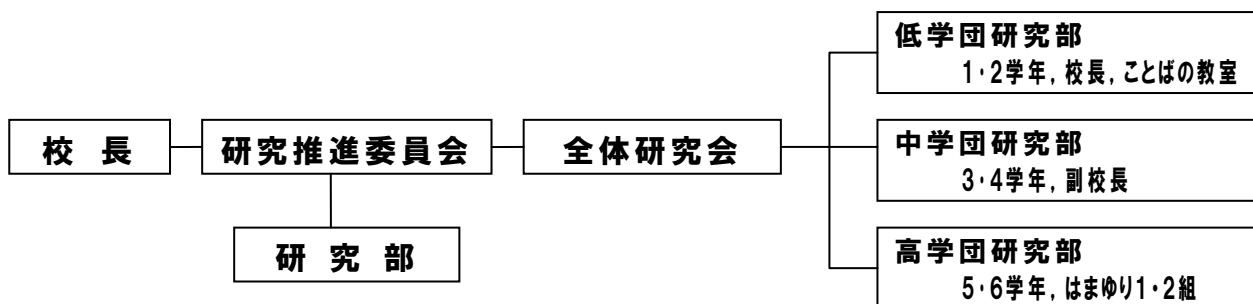
- ア 「書く活動」を位置づけた授業の指導過程の工夫
 - ・ 文章の内容と形式を正しく読み取るための指導過程の検討
 - ・ 読み取ったことを効果的に表現するための書く活動の在り方の検討
- イ 説明文学習における指導内容の精選
 - ・ 説明文の学習において身につけさせたい力の明確化と学年ごとの系統表の作成
- ウ 児童の学びを確かめるための評価の工夫
 - ・ 段階的・多面的な評価の工夫
- エ 「確かな読みの力」を支えるための学習活動の工夫
 - ・ 段落構成をとらえる学習：全学年に「リライト教材」を用いた学習を位置づける。
 - ・ 読書活動の推進：朝読書，地域・PTAボランティアによる読み聞かせ等を行い文章読解の基盤となる読書意欲を高める。
 - ・ 言語事項の定着：チャレンジタイムの時間に漢字などの言語事項に関する復習を行ったり，月1回漢字チェックテストを実施したりする。
 - ・ 語彙力の向上：3年生以上の児童全員に国語辞典を持たせ，国語以外の教科でも活用させる。1・2年生は教室に人数分の国語辞典を常設し，読書の時間に読んだり，必要などきに使用したりすることができるようにする。

(2) 方法

- ① 文献研究
 - ・ 研究主題に関する文献，先行研究資料などから学ぶ。
- ② 実践研究
 - ・ 仮説に基づく授業研究及び日常実践を行い，指導法を検討する。
- ③ 調査研究
 - ・ CRTなどの学力調査の結果分析により，研究の有効性を検証する。
 - ・ 国語に対する児童の意識調査を実施する。

7. 研究組織と計画

(1) 研究組織

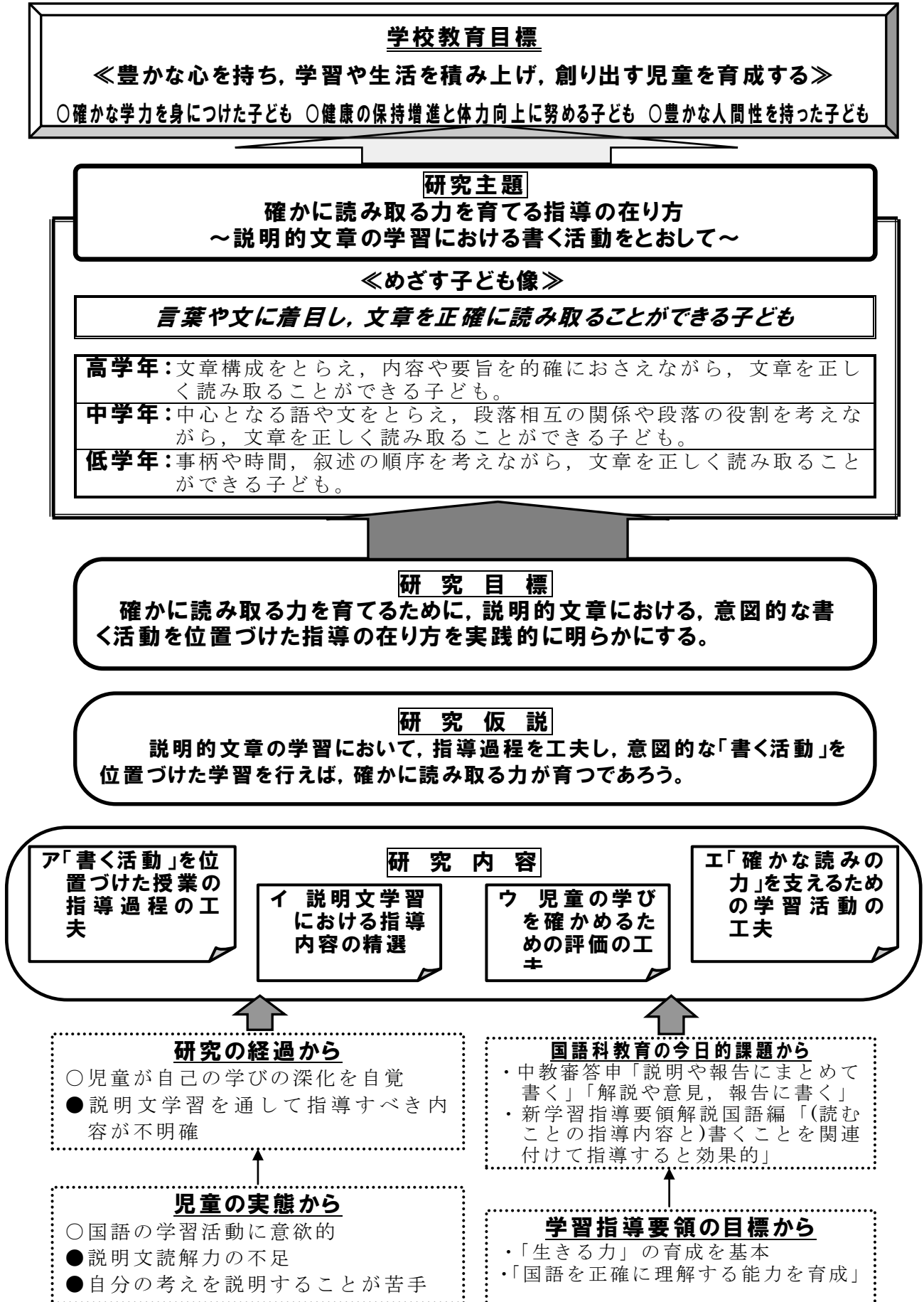


- 全体研究会・・・研究計画の検討，研究推進のための共通理解，文献研究，授業研究等，本校の研究の中心となる。
- 研究推進委員会・・・研究全体計画の立案，調整等について検討を行う。
- 研究部・・・研究計画，企画調整，資料提供・整理・保管等を推進する。校外研修会・講習会等の案内，取りまとめを行う。
- 学団研究部・・・研究授業の構想（学団事前研），教材研究，司会進行，記録，授業のまとめ，統計調査・集計等を行う。

(2) 研究計画

学期	回	月	日	曜日	研究会の内容	司会	研究会記録	VTR	授業記録
一 学 期	1	4	9	木	新年度構想①(研究の概要)	馬場	丹		
	2	4	13	月	新年度構想②(研究の具体的内容)	馬場	外館		
	3	4	28	火	外国語教育研究会①(研究授業)	馬場	関上	馬場	
	4	6	3	水	3学年研究授業【講師依頼】	副校長	大崎	田代	安藤
	5	6	11	木	5学年研究授業【講師依頼】	副校長	田代	馬場	外館
	6	6	22	月	2学年研究授業【講師依頼】	副校長	菊池	田代	安藤
					4学年研究授業【講師依頼】	副校長	小向	安藤	田代
	7	7	7	火	6学年研究授業【講師依頼】	副校長	安藤	菊池	丹
夏	8	7	10	金	1学年研究授業【講師依頼】	副校長	菊池	丹	小向
	9	7	27	月	学校公開研究会に向けて①(単元構想検討会)	馬場	丹		
	10	7	28	火	学校公開研究会に向けて②(本時案検討会)	馬場	外館		
二 学 期	11	8	10	月	学校公開研究会に向けて③(指導案検討)	馬場	関上		
	12	8	20	木	学校公開研究会に向けて④(指導案検討会)	馬場	大崎		
	13	9	3	木	学校公開研究会に向けて⑤(助言者・司会者打合会)	馬場	菊池		
	14	9	10	木	学校公開研究会に向けて⑥	馬場	田代		
	15	9	24	木	学校公開研究会に向けて⑦	馬場	菊池		
	16	10	2	金	学校公開研究会				
	17	10	8	木	学校公開の反省	馬場	小向		
	18	11	17	火	外国語教育研究会②	馬場	安藤		
	19	11	26	木	今年度の研究のまとめ	馬場	関上		
冬 二 学 期	20	12	10	木	新年度の方向性	馬場	大崎		
	21	12	28	月	特別支援研修会	馬場	菊池		
	22	1	28	木	新年度構想	馬場	丹		

8. 研究の全体構想図



9. 研究の実際(平成19年度)

(1) 確かに読み取るための「書く活動」の在り方

「書く活動」を行うことによって「確かに読み取る力」を育てるには、「何のために」「いつ」「何を」「どのように」を明確にする必要がある。

そこで、平成19年度は、目的、場面、方法を明らかにすることに重点をおき研究を深めてきた。その結果、以下のように「書く活動」を行うことで児童が主体的に学習に向かい、文章を読み取る力が育つことが明らかになった。

① 「書く活動」の目的

ア 情報を取り出すための「書く活動」

イ 考え(読み)を表現するための「書く活動」

ウ 学びを確かめるための「書く活動」

② 書く活動の種類

書く活動	内 容	目 的		
		情報を取り出す	考えを表現する	学びを確かめる
サイドライン	重要語句や文、課題解決の根拠となる言葉や文に傍線をひく活動。	○		
丸(四角)囲み	重要語句や文、課題解決の根拠となる言葉や文を線で囲む活動。	○		
抜き書き	課題解決に関わる言葉をノートなどに書き写す活動。	○		
視写	課題解決に関わる文をノートなどに書き写す活動。	○		
穴埋め	授業者が意図的に作った空欄に読み取った重要語句を当てはめて書く活動。	○		
書き込み	サイドラインをひいた文や抜き書きした文の右側に、読み取ったことや自分の考え等を書く活動。		○	
吹き出し	読み取ったことを生かしながら、具体例として挙げられているものの内心語を吹き出しに書く活動。		○	○
まとめ書き	読み取ったことや読み取ったことから考えたことをまとめて書く活動。		○	○
感想	学習を振り返って思ったことやわかったこと、友達の学びの良さなどを書く活動。			○
自己評価	学習後、自分の学びの様子を観点ごとに振り返り、書き表す活動。			○

(2) 「書く活動」の場面と支援のあり方

① 単元の基本的な指導過程と書く活動例

段階	学 習 活 動	書く活動例
第一次	1. 単元名，教材名について考える。 2. 範読を聞き，全文を通読する。(音読練習を行う。) 3. 初発の感想を持つ。 4. 学習課題を作る。 5. 学習の見通しを立てる。 6. 新出漢字，難語句の意味を理解する。	まとめ書き (題名読み) 感想
第二次	7. 教材の内容，形式を読み取る。 ・ 段落ごとに内容面，形式面の両面を読み取っていく。	サイドライン 丸 (四角) 囲み 抜き書き 視写 書き込み 穴埋め まとめ書き 吹き出し 感想(単位時間) 自己評価(単位時間)
第三次	8. 読み取った内容をまとめる。 ・ (発達段階に応じて) 全体を見通した読み取りをする。 ・ 要旨，要約，読後の感想等をまとめる。	まとめ書き 吹き出し 感想(全体) 自己評価(全体)
第四次	9. 読み取ったことを生かしながら読書や表現活動を行う。	感想(全体) 自己評価(全体)

② 単位時間の基本的な指導過程と書く活動の位置づけ

段階	学 習 活 動	書く活動例	
導 入	1. 前時の学習を想起する。 2. 学習課題の確認をする。 3. 課題解決の見通しを持つ。	○児童の感想やまとめ、掲示物等を生かして振り返る。 ○学習課題は、児童の思考を促し、多様な考えが生まれるようなものにする。 ○学習課題文を検討しながら、課題解決に向けての読みの視点を確認する。 ○本時の学習の到達点を示す。	(学習課題の)視写
展 開	4. 本時の学習段落の音読をする。 5. 学習課題に対する自分の考えや読みを持つ。 【書く活動①】 6. 自分の考えや読みを交流する。	○学習段落は、児童側から出るように質問を工夫する。 ○聞いている児童は、課題解決の手がかりとなる文や言葉を見つけながら聞く。 ○学習課題について、一人学びをする。 ○書く活動を位置づけることによって、主体的に学習に臨む姿勢を作る。 ○自分の考えや読みの根拠を明らかにしながら読み取る。 ○友達の考えと比べたり、よさを見つけたりしながら学び合いをする。 ○学び合いを通して新たなことに気づき、課題についての読みが深める。	サイドライン 丸（四角）囲み 抜き書き 視写 書き込み 穴埋め まとめ書き 吹き出し
終 末	7. 学習課題に対するまとめをする。 【書く活動②】 8. まとめの音読をする。 9. 本時の学習を振り返る。 10. 次時の学習内容を確認する。	○学習課題に沿った形でまとめを書く。 ○学び合いから生まれた新たな考えを生かしながらまとめる。 ○読み取ったことが聞き手に伝わるように読む。 ○感想を書いたり、自己評価を行ったりして本時の学習を振り返る。 ○次時の学習への意欲化を図る。	まとめ書き 吹き出し 感想 自己評価